

高校生と広島国税局長との座談会を開催（税の現状や課題について）

税への理解を深めよう ～「税を考える週間」に向けて～

国税庁では、租税の意義や役割、税務行政の現状についてより深く理解していただくため、毎年 11 月 11 日から 17 日を「税を考える週間」として、様々な啓発活動を実施しています。

この度「税を考える週間」に向けて、次代を担う広島市内の高校生 3 人と広島国税局長に、「少子高齢化の進展で社会保障費が増え続ける中、これからの税のあり方や税務署の仕事」について話し合っていました。

（司会＝吉原圭介・中国新聞経済部長、文中敬称略）



【座談会出席者（敬称略）】

広島県立 祇園北高等学校	2 年	丸本 紘輝
学校法人崇徳学園 崇徳高等学校	2 年	新谷 優之介
広島市立 広島商業高等学校	2 年	山本 清華
広島国税局長		重藤 哲郎

国の財政の現状

- 一 国の財政の現状は国債依存、つまり歳入の約 4 割を借金が占める厳しい財政事情が続いています。財政の健全化を図るために、「税収をどのように増やすか、借金をどのように減らしたらいいのか」若い世代としてどう考えますか。

山本 今、日本は借金が増え続けていて不安定な状態です。この状態から抜け出すためには税収を上げれば良いと思います。そのために消費税を増税するというのを考えました。生活にゆとりがない人にとっては苦しくなるとは思いますが、増税しても大丈夫と思ってもらうには、収入を多くもらえるようになれば良いと思いました。

私たちは販売実習で、たくさんの人に来ていただき、商品を購入していただけるよう、販売する商品や宣伝に工夫をし、また、外国の方にも購入していただけるよう対応しています。



山本 清華さん

各会社で技術の向上を行うことで収益を上げ、お客様が買い物することが増えれば税収も増えると思います。

新谷 ただ増税すればいいと、そんな単純なことだとは思わないです。例えば、消費税を上げたら購入意欲が下がりますし、所得税を上げた場合、働く意欲が下がってしまい、結果、税収そのものが少なくなってしまうと思います。

消費税を上げること自体は反対ではないですが、上げたら上げた分だけ、もっとお金が動き、負のスパイラルにならないような工夫は必要だと思います。

今、日本では、「エコ」や「オーガニック」が注目されています。国がオーガニック食品やエコカーに対して補助金制度や開発支援などを行えば、多くのお金が動き、結果として税収が増えるのかなと思います。

歳出については、次世代のことを考えて、社会保障費を少しずつ削減するべきだと思います。

日本の財政は、多くを借金でまかなっているのだから、そういう状態の中で、日本全体として、優先順位を付けて何を削減していくべきかを、もう一回よく見直すべきだと思います。

丸本 消費税をはじめとした、国民から得る税金の割合を増やしたらいいのではないかと考えます。医療関係に莫大な税金を使っているのだから、医療の給付を減らしたりする方法もあると思います。

しかし、医療の給付を利用している人の多くは高齢者なので、生活が苦しくなるのは間違いないです。

ですから、医療の給付を減らすのは難しいと思うのだから、他の税金の割合を上げてまかなうほかないと思います。



具体的には、間接税の税率を上げていったらいいと思います。消費税が一番国民に関わっている税金なので、ほかの税金よりも財源ができると思います。

僕は、たばこ税を特に引き上げたらいいと思っています。たばこは体に害があるので、吸っている人を少なくしたいからです。

重藤 今、日本の財政が非常に厳しいというのは、みんなよく分かっているのだから、それを何とかしなくてはいけないと思っています。

その中で、財政を良くしていくためには、例えば、増税して、経済が悪くなってしまったら逆効果になってしまう。だから経済を良くして、経済がどんどん活発になれば、それによって税収も増えて、財政事情が良くなればいいのではないかとその意見がありました。

やはり財政と経済を切り離して考えることはできません。経済自体が駄目になってしまったら、財政も結果的に駄目になってしまうという悪いスパイラルになるため、経済は良くしていかななくてはけません。そうすることによって、今の財政状況がきちんと改善できれば、それは理想的で、難しい言葉で自然増収と言いますが、それで財政が良くなればそれに越したことはありませんね。

消費税は確かに広く安定的な財源で、世界の多くの国でも導入されています。日本でも、ほかの税金に比べると導入されてから比較的新しいのですが、今では主要な国の税収源になってきています。

ですから、今言った経済の成長の仕方とか歳出の削減の仕方と併せて消費税の在り方もどうしていったらいいのか、これからさらに考えていかなければいけない大事なテーマであると思います。

これからの税制

ー 税金をどのようなことに使って欲しいですか。

山本 税金を教育と介護に使ってほしいです。大学の学費なども税金でまかなってくれれば、より知識を身に付けることができ、専門的な仕事にも就くことができると思います。税金は国民が暮らしやすい社会になるように使ってほしいです。

新谷 やはり次世代の負担を軽くするために借金の返済に使ってほしいです。借金の負担は、次世代が負担していくこととなります。次世代の人は何の罪もないのに生まれた時から多額の借金を背負うことになるので、将来の日本社会のためにも、今のうちに少しでも減らしておくべきだと思います。



新谷 優之介さん

丸本 第一に国民のために使ってほしいです。国会議員等の給料や政治資金にも税金が使われているのを知っています。ニュースで政治資金を使ったと嘘の報告をしてお金をだまし取ったと知り、本当に腹立たしいと思いました。そんなことのために国民は税金を払っているわけではないので、そういうことはもうなくなってほしいです。

重藤 嘘の報告をして税金を使ってという話がありましたが、やはり税金というのは国民一人一人から納めていただいているものだから、正しいところで使わなければいけない。それは大原則だと思うので、丸本君の問題意識はもともとだと思います。

それから新谷君からも次世代の負担を軽くしてほしいという話がありましたが、これはまさに私たちも本当にそうしなくてはいけないと思っています。確かに、国の予算を見ても借金の返済が予算の中のかなりの部分を占めています。

だから、借金を返すために、また借金をして、借金がどんどん膨らんでいる状況です。

君たちのようなこれからの将来の世代の人、さらにその子ども達の世代に、負の遺産を残してはいけません。そこを改善するのは、今の我々の世代の責任ではないかという問題意識はすごく持っています。

税務署の仕事について

ー 税務署の仕事について、どのように思いますか。また、将来どのようになればいいですか。

山本 調査に対しては、申告された内容に間違いがないかを調査するというイメージが一番強いです。納める税金をごまかしたりしていないかを調査したり、申告していない人の調査をしたりと、間違っただけを正しいことに直す仕事だと思っています。

調査も徴収も国民のために正しく納税してもらうための大切な仕事だと思いました。また、正直に申告している人が損をしないような社会にしていると思います。

新谷 やはり税の公正さとかを保つためには必要な仕事だと思います。学校に来てくれた税務署の人の話を聞いて、正義感を持って仕事をされているのを感じました。

その正義感のおかげで、正しく税を回収して、税が使われているわけだから、自分たちの生活に必要な不可欠な仕事だと思います。

ただ、そうやって調査とか徴収するだけではなく、税の必要性をもっと国民に伝えたり、税の使い方について、もっと納得できるような活動をするべきだと思います。

丸本 脱税など不正をしている人の所に行って押収しているイメージがあります。税金をきちんと納めない人の処罰を重くすることで、脱税を抑制できたりしないかなと考えました。



丸本 紘輝さん

重藤 税務署は、皆さんが日ごろの実生活でそんなに身近に接する機会もないだろうし、あまり身近な存在として意識したことはないのかもしれないのですが、税務署には、一つには税金をきちんと納めていただく、そして納めていただいた税金をきちんと管理して国庫に入れるという仕事があります。

また、税金をごまかしてきちんと納めない人もいるので、そういう人に対しては調査をして、正しく税金を納めてもらうようにする。そういう調査や、納めるべき税金を納めていない人から税金を徴収する二つの機能があります。

税金というのは国民の皆さん一人一人から、あるいは会社から納めてもらっていますが、それをみんなが納得して納めるためには、ズルをする人がいないというのが大前提です。



重藤広島国税局長

本来払うべき税金を払わないままで済んでいる人がいれば、みんな公平感を持つことができず、自分の払うべき税金をきちんと払おうという気持ちになかなかありません。ですから、そういうズルはできないように、払うべき税金を払っていない人がいたら、きちんと調査して、きちんと払ってもらおうというのが、租税制度の根幹だと思います。

ですから、今、私たち国税局・税務署は、脱税の防止に取り組んでいます。今は、日本だけではなく、世界各国の中でも協調して不正や税金逃れに対処しようという動きが非常に高まってきています。そういう中で、私たちは、不正を見逃さない努力をして、結果として、みんなが納得感や、公平感を持って、気持ちよく税金を納めてもらえる、そういう社会をぜひ作っていきたいと思っています。

皆さんのような若い人たちが、よく考えていてくれるのは非常に頼もしい限りだという印象を受けました。

今日は本当にいろいろなご意見をありがとうございました。